

来月から建築の使用開始

「富士山『桧輝』」普及へ エコ価値高める新ブランド

緑の循環システムが認証を取得



「富士山『桧輝』」の普及を目指す渡辺委員長(右から2人目)ら

地場産の富士ひのきを魅力ある住宅建材として利用促進させるため、富士山木造住宅協会(寺崎幸治会長)は、エコ価値を高めた新ブランド「富士山『桧輝』」(ふじやまのき)として富士ひのき材を売り出す。荒廃林の解消を考えた森林循環型の生産流通システムを構築したことにより、環境にやさしい富士山ろくの木材として消費者に活用を呼びかける意向だ。

「川上から川下までの流れを一体型に…」

(事務局)。これまでは森林整備だけを考えて持続可能な森林経営を目指しても生産や流通には直接結びつかず、需要低下が森林荒廃も招いていた。そこで協会は組織内に森林認証材委員会(渡辺泰敏委員長)を設け、他業種と連動した一括システムづくりを進めた。この取り組みが結実し、今年3月末にSGEC(緑の循環)森林認証を得た。

最大の資材業である(株)マルタイの工場でプレカットし、加盟する地元の仕事店11社に渡すという一連の流れ。

こうした連携の取り組みが住宅消費に結びつくことで林業活性化を喚起し、持続可能な森林経営につなげていくのが狙いだ。ひのき材を使っているSGEC認証取得は県内でも初めという。

地球温暖化が叫ばれる現在、消費者にとってCO2削減に貢献する住宅資材のエコ価値は魅力の一つ。今後は新ブランドの周知向上に努めるだけでなく、一般消費者が認証森林や加工・プレカット工場を見学できる「きこりツアー」なども実施し、富士山ろくの森林保全に理解を深めてもらう啓発行事も繰り広げていく計画だ。

協会では24日、富士市平垣町のホテルグランド富士で会員たちへ認証取得の報告とシステムの説明を行い、新ブランドによる住宅消費の活性化に意欲を高めた。富士市内では、今回のシステムを活用した住宅需要がすでに数件出てきており、新ブランド建築材を活用した家の建築が5月から早々にスタートする予定という。

また、富士市行政も地場産ひのき材を使用した住宅に助成金を交付するかどうかの検討を今年度中に開始する予定もあり、協会として行政支援も得ながら、富士山ろくに富士ひのきの家を増やしていきたいとしている。

【富士山木造住宅協会】富士・富士宮地区の中小工務店を中心として昨年5月に発足した建築関連のネットワーク。(株)マルタイに事務局を置き、国の施策に関する情報の提供や資質向上のセミナー、必要な資格を取得するためのサポートなどを行い、組織的に業界の発展を図っている。

市老連 会員増強など協力要請

53人に功労・協力表彰も

富士宮市老人クラブ連合会の2009年度総会が23日、富士宮市総合福祉会館で開かれ、新年度の活動や役員改選について話し合った。役員改選では、新会長に清利夫さんが就任し、53人に功労・協力表彰も行った。

議事を前に、柏木信市会長があいさつに立ち、前年度の活動が順調に終わったことを語り、「多くの人の協力のおかげで無事に終了した。今年度は、昨年より3クラブ減少した66クラブに引き続いて行われた表彰では、役員として5年、10年の年月を尽した功労者や、協力した市会議員や、市会議員がそれぞれ一日一日を大切に過ごしていったほしい」と述べた。



表彰を受ける5年表彰代表の天野光雄さん(左)

- 敏夫(瑞穂区さぐらの会) 渡辺英賢(咲花白一会) 久保田勝彦(同)
- 池谷邦之(同) 佐野忠彦(田中寿木会) 武井弘(源道寺長寿会) 遠藤弥一(同) 細目あい子(黒田白寿会) 中村きみ子(同) 宮崎亮平(新寿会) 深沢芳子(宮本永寿会) 渡井竹元(あさま百寿会) 荻野勝(星山二区八星会) 志村ミル(野中東長会)

1日限定高速バス
八王子・多摩線運行

帰省やレジャーに利用を
ふじ観光プランニング

速バス「線」を運ぶ
料金は円、往復(小学生以下)は半額
午前7時 往路は
土宮市役所(小生) 分発) 1
時30分着 摩動物公
子到着。

- 山友和会) 戸嶋千代子 村悦子(下条上区寿会) (シニア) 井出忠臣(下条下寿会) 佐野宗 美津子 (黒田) 一(常) 雄(富) 政子(瑞穂) 池谷静 望月進 (同) 寺長寿 (黒田) (小) 美津子